

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600558
法人名	株式会社 エルダーサービス
事業所名	グループホーム牧水の丘
所在地	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5-20
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和5年10月14日	評価結果確定日	令和6年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年12月事業所を開設して21年目を迎えます。現在、9名の入居者様がひとつ屋根の下、心身の変化は日々あるものの、概ね安定した生活を送られています。今後も入居者の皆様、安心して日々『笑顔』で生活していただくことが出来るように、職員一人ひとりが人生の大先輩である入居者の尊厳を守り、支援のその手に心を添え、自分らしく楽しく穏やかに過ごすことが出来る様に、お一人ひとりに合わせた気づきと思いやりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな小高い丘に位置し、歴史ある日本家屋をリノベーションした趣のある建物が特徴的であり、四季折々に移り変わる草木の彩の変化を眺めながらゆったり過ごすことができる。日頃の何気ないかわりの中で、思いや意向の把握に努め、その人らしい生活が継続できるよう、アプローチしていることが伺える。長期に入居されている方も多く、個人のペースや習慣を尊重し日々の変化に向き合っている。また重度化へと移行していく中で、終の棲家としての役割を担うための体制作りにも取り組んでいる。タブレットを用いた電子カルテの導入など、業務の効率化にも取り組んでおり、管理者は職員の離職を防ぐ研修に参加し、職員の働きやすい環境づくりに努めながら、利用者、家族が安心して過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、皆様がよく目につく場所に掲示しており、毎朝のミーティング及び定例会等で唱和し共有している。理念の実施に向け日々の業務に取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を掲げている。法人全体の理念を共有し、事業所ごとに毎月の目標を設定している。日々の申し送りや定例会で確認し、実践に結び付ける取り組みがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症予防の影響で、地域の方との交流の機会は、現在の処減少している。5類になりましたが、コロナウイルス感染の減少にいたらず、交流が厳しい事態です。	自治会に加入し回覧板の受け渡しや災害対策などで連携を図っている。新型コロナウイルス感染症予防の影響で面会や職場体験等の受け入れが困難になっている。制限のない時には、感染対策とソーシャルディスタンスに配慮しながら、地域交流に参加できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや見学希望等、感染対策をとりながら対応している。その際、ご利用者ご家族の思いにできる限り寄り添い、解決できるよう、他施設との連携にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活、活動内容を報告しご家族、町内会、地域包括支援センターの方々と意見交換、情報交換を行い業務に繋げている。また、虐待・身体拘束適正化検討委員会も実施している。	運営推進会議は、入居者・家族・町内会長・地域包括支援センター担当者をメンバーに、2か月に1回開催されている。運営状況やヒヤリハットの報告、地域情報の共有と意見交換にて運営への反映に努めている。コロナ禍では書面開催で議事録の送付等を通じて、運営状況の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防のため、面会等の制限がありますが、運営推進会議の議事録をFAXした際回答を頂いている。	新型コロナウイルス感染状況や居室の空き情報などについて、市町村の担当や地域包括支援センターとの情報共有に努めている。議事録を地域包括センターに送付し、意見や提案を頂く関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を開催し具体的に禁止行為等について学び、現場についてもそれらの行為がされていないか、検証している。	契約時に、事業所の方針や、日常生活のリスクについて説明している。また身体的拘束の適正化に向けた指針やマニュアルの作成、研修を実施し、職員の共通認識を図っている。定期的な委員会や毎日のミーティングや申し送りを通じて、現状の振り返りと検証を行うことで身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングを通じ、虐待の種類について学び現状においてもそれらの行為がされていないか、検証している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所でも左記の制度を利用されている方もおり、内部研修を実施している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について年間計画の中に位置づけ、学ぶ機会を設けている。また資料の整備や法人内の事例から知識などを習得し、必要な場面に活用ができる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や介護報酬改定毎に、入居契約書や重要事項説明書に基づき、サービス内容や料金等について詳しく説明している。質問や相談には誠意を込めて対応し、納得頂いた上で契約をするよう心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話を大切にしている。何気ない会話の中にもご入居者の思い・願いが込められていることを理解し、ご家族とも積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を構築し意見や要望を頂けるように努めている。	毎月の家族への手紙や定期的に通信を発行し、日頃の暮らしを伝えている。運営推進会議の参加頂いたり、家族会を開催するなど意見交換がしやすい機会を設けている。また家族同士のコミュニケーションの場としても活用されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、ミーティングや定例会、個人面談にていろいろな意見や疑問を聞き、反映するようにしている。日頃から良い提案等は積極的に取り入れている。職員間の意見交換も常に行っている。	毎日の朝礼、ミーティング、定例会、個人面談を通して意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃から職場内コミュニケーションの円滑化を図り、個々の意見や気づきが運営に反映でき、やりがい働き甲斐のある環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の中で、職員一人ひとりの状況を把握し、必要に応じて柔軟な調整を行いながら本人のやる気と向上心に繋げるように努めている。常に働きやすい職場を目指し、優秀な契約社員は正社員への登用等へ繋げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別、年齢、経験等での排除行為はない。管理者は職員が生き生きと働けるような職場作りを心がけ、キャリアパス参考に人事考課等年2回実施しそれぞれの能力が大いに発揮出来るように努めている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。管理者は、自らが研修に行き離職のない職場づくりに努めている。個人面談や人事考課制度を通じて、職員個々の能力が十分発揮できるよう一緒に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご入居者の人権に十分に配慮したケアを実施出来るように日頃から指導し、WEB研修を活用し、教育の場を多く提供できるよう取り組んでいる。	年間計画の中に権利擁護や高齢者虐待の発生要因、認知症ケア等の研修を位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術の評価を行い、マニュアル等で技術の向上が図れるよう、法人内外の研修や定例会を通じて指導、実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修への参加や法人内のグループホーム4事業所の相互訪問によって、意見交換、情報交換を行えるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、生活歴や本人の希望、要望、困っている事、不安な面等を伺い、共感の姿勢を持ち、信頼関係をまず作り安心感を持ってもらえるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、家族の思いをすべて受け止めるよう努めている。その上で最適なケアを行いながら安心出来る生活を目指す事をお伝えしている。随時、問い合わせや相談にも応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等情報を参考に、まず暫定プランを作成し、モニタリング・評価を行い、入居後の本人の状況と照合しながら、今どのようなサービスが必要であるかを検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場面においては共に行う生活援助の提供に努めている。日々のふれあいや共に笑い悲しみ、驚いたりと時間を大切に信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を第一に考えた支援を提供している。本人の生活振りをお伝え、より良い関係が築けるように、ご本人が安心した生活が送れるように家族と一緒に考えている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の電話やテレビ電話を活用し、関係が途切れる事のないように心掛けている。また、状況等をその都度ご家族に報告し了承を得るようにしている。	新型コロナウイルスの感染状況により、面会制限があり電話やテレビ電話を活用しながら、家族や馴染みの人との繋がりの維持に努めている。制限のない時は馴染みの場所に行ったり、人に会ったりできる機会を設け、関係が途切れないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの空間を活用し、必要時は職員が中に入りご入居者同士の会話が弾むよう支援している。レクリエーションや家事等の共同生活も楽しく取り組まれている。ご入居者が無理のない程度に関わりが持てるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者のご家族からお便りを頂いたり、事業所から電話にて状況を伺ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりとの会話やかかわりを大切にし、意向や願いを受け止めて、本人を尊重した生活を目指している。朝礼やミーティング、定例会にて検討し、出来る限り意向に沿えるようにしている。	本人・家族・関係者などから情報を収集し、これまでの暮らしや今の心身状態の理解を深めている。また、その人らしい生活が続けられるよう、職員全体で、日々のかかわりの中で一人ひとりの思いや意向に関心をもち、思いに寄り添った支援ができるよう取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話を通じての情報提供の他に本人が以前利用していた介護サービス等があれば情報を提供してもらっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察、コミュニケーション、日誌やミーティングを通じて現状を把握し、一人ひとりが安心して生活できるように努めている。必要があれば随時検討し、担当医と連携して改善に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人に意見、要望を伺ったり、カンファレンスを通じて重要なニーズを導きだし、介護支援専門員が介護計画を作成している。	担当制による、こまやかなかかわりによるニーズ把握と本人・家族の意向、主治医の意見も反映しながら現状に沿った介護計画を作成している。日々の帳票作成やカンファレンス、モニタリング等を通じて、見直しの必要性について確認している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録は、日々の様子、心身の状態やケアの内容を詳細に記録している。朝、夕の申し送りやミーティングシートにて、より細かな情報交換を共有し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループホーム4事業所間の交流や情報交換・共有に努めている。画一的なサービスの提供にならないよう、課題に対して様々な職種の意見・アイデアを参考にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回地域運営推進会議を開催し、家族、市の職員、町内会の方々との交流、意見交換を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者ご家族の医療に関する希望をお聴きしている。かかりつけ医とは必要時fax等用い報告相談している。受診が必要な時は、介護職員も付き添い支援している。直接、ご家族に説明が必要時は出来るよう支援している。	認知症疾患医療センターとしての指定を受ける協力医療機関との密な連携を活かし、訪問診療や受診を通じて適切な医療を受けられるよう支援している。また看護師が訪問することで、きめ細かな医療連携と健康管理が図れている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による、バイタルチェックや問診を行い全身状態観察を実施している。また、介護職員より1週間の近況報告をしたり、相談を行い日々のケアに役立っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面を用いご入居者情報の提供を行っている。病院のソーシャルワーカーとも連携をとり、退院までの経過においてご利用者が混乱されないよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『生命の事前確認書』、『看取り介護についての説明と同意書』を用い終末期のケアの方針について話し合っている。その後もACPを行い、終末期を安心感をもって安楽に迎えられる様取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の在り方について、契約時より、事業所としての対応方針について、主治医を交え説明を行っている。段階ごとに家族等、かかりつけ医、ケア関係者と意向を確認しながら対応方針の共有を図り、安心した終末期を迎えられる取り組みができています。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、研修や実践訓練を行っている。AED(自動体外式除細動器)を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消防点検を行っている。昼夜を問わずに入居者が安全に避難出来るようにしている。 BCPIは現在作成中である。	事業所の立地状況に沿った各種災害に対するマニュアルを整備し周知徹底を行っている。年に2回夜間帯を想定した防災訓練が行われている。近隣の同法人事業所や地域住民との連携体制の構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に本人の尊厳を大切にし、親しい信頼関係築けていても、人生の大先輩であることを忘れてはならないと職員に伝えている。プライバシーに配慮した対応、心からの言葉かけを大切にしている。	「個人情報保護・プライバシー保護・人権・認知症の倫理」などを年間計画に位置付け、ひとり一人の誇りを尊重しプライバシーを守るための職員教育ができています。法人全体でもマナーアップや接遇に関する意識向上を重要視し研修を重ねている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し、可能な限り実現出来るようにしている。日頃から自己決定、自己判断出来るようオープンエスチョンによる言葉かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、一人ひとりのペース日課を大切に、アセスメントを実施している。出来る限り柔軟に対応出来るように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問美容室がオープン。希望者は美容師によるヘアカットを受けて頂いている。洋服もご入居者とともに選び、着用して頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みを献立に活かし心身の状態にも考慮しながら入居者と職員が楽しく会話をしながら食事をしている。できる方には、片付け等のお手伝いしている。	地域の市場や食材宅配業者も活用しながら、個々の嗜好や栄養バランスなどに配慮した手作り料理を提供している。リビングに近いキッチンで調理が行われ、料理の音や臭い等、五感を刺激することで食事への関心を引き出す工夫をしている。食後の後片付けなど本人の希望に沿った、役割分担を支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の必要量目標値を設定して、食事水分摂取量をチェック表にて把握し、一日に必要な量が確保出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、訪問歯科の医師より、助言と指導を受けている。また、歯科衛生士を雇用し、週2回の専門家による口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排尿、排便のパターンを把握し、声掛けによる誘導を行いトイレでの排泄を実現している。その際、プライバシー保護には十分注意し、不快な思いのないように心がけている。	個別の排泄状況を把握し、パターンに応じたトイレ誘導を行うことでトイレで排泄できるように努めている。自尊心に配慮し利用者のサインを敏感に察知し、能力に応じた必要な支援を行っている。トイレで排泄を行うことで下肢筋力の低下を防いでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に緩下剤等を用いず、パターンを把握し誘導を行って習慣化しトイレでの排泄を心掛けている。また、水分摂取に努め、腹部マッサージ、野菜の摂取等、便秘予防に繋げている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、週2から3回の入浴となっているが、要望や体調面に配慮した柔軟な対応に努めている。	日常的に入浴を準備し、希望や体調、状況等に応じて、無理強いとにならないように支援している。出来る限り湯船に浸かれるよう、職員2名対応やバスリフトの活用を行っている。浴室の壁には、管理者の手による漆喰壁が施されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中はリビングにて体操等の活動的な時間を設け、午後からは居室にて自由時間を楽しんだり、室内の温度調整にも気を付けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬中の薬説明書をファイリングして全職員が薬の効能や副作用について理解し、いつでも確認出来るようにしている。居宅療養管理指導で薬局の方の支援と指導を受けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、パズル、歌の好きな方は童謡や唱歌を歌ったり、洗濯物たたみ、テレビを楽しく視聴されたりと気分転換の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	順番にドライブ出掛けている。、出来る限り一人ひとりの希望に添えるように努めている。暖かい日はテラスで外の空気に触れて頂けるように支援している。	日々のかかわりの中で利用者の希望を把握し、家族や地域の協力を得ながら、個別の外出支援に努めている。また中庭で四季折々の花木(桜・枝垂れ梅・紅葉・白桃)を眺めながらお茶を楽しむ機会が設けられている。新型コロナウイルス感染状況を見極めながらドライブなどに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自身でお金の管理をしている入居者は居られない。職員と広告を広げ、「高い、安い、美味しい！」等の会話はよく行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族から要望があればご家族とオンライン電話で会話されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段過ごされるリビングには、開放的な大きな窓があり、いつでもテラスや庭に出られるようになっている。窓からの景色の他に季節ごとの展示物で季節感も演出している。	趣のある建物内は調度品や建具、硝子窓など全てに風合いがあり、懐かしさと落ち着いた雰囲気居心地のよい空間が広がっている。リビングの大きな窓から四季折々に変化する木々が鑑賞でき、季節を感じる工夫ができています。庭園に降りるスロープも設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室にてゆっくり過ごしたり、リビング等の共有スペースにてテレビ鑑賞したり楽しく談笑したりと個々の時間が過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具やぬいぐるみを持って来られ、家族の面会時は居室で楽しく過ごして頂けるよう努めている。、時には家族と一緒に居室にて談笑されている。	各居室は畳敷きや板張り、床の間や押し入れなど間取りや設備も様々である。古いアルバムやぬいぐるみ、筆筒や椅子、仏壇など馴染みの物が持ち込まれ、利用者それぞれの居心地の良さに配慮された個性が感じられる生活空間。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない床、照明の明るさ、手すりの設置等安全を確保しながら自立に向けた環境整備をしている。居室やご自分の持ち物にもわかりやすい目印を付ける等工夫している。		